

授業科目名	保育内容「表現」指導法		担当教員名	和田 宏一 / 石田 晶大
科目区分	教職・保育に関する科目	施行規則に定める科目区分等	領域及び保育内容の指導法に関する科目-保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む） 表現 / 保育内容演習/保育の内容・方法に関する科目	
必修-選択/単位数	必修 / 2単位（30時間）	授業方法/担当形態	演習 / オムニバス	
開講学年/学期	2年 前期（2期） / 年間開講数 1講座	特記事項	※実務経験のある教員等による授業 ピアノ、音楽指導者として音楽教室を主宰している経験を活かし、音楽の基礎的知識、技能の習得のための指導を行っている。<池内> ※「保育内容演習」の指導内容を含む	
授業の概要及び全体目標	乳幼児の実態に応じた保育内容を展開するために、発達の特徴を踏まえた上での指導のあり方を探っていきます。表現活動が子どもたちにとって何をもちたすものなのかを考え、保育内容「表現」を展開するための計画、指導、実践する力を身に付けます。			
到達目標	<p>1-保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p> <p>(1)各領域のねらい及び内容：幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、各領域のねらい及び内容を理解する。</p> <p>①幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。</p> <p>②当該領域のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。</p> <p>③幼稚園教育における評価の考え方を理解している。</p> <p>④領域ごとに幼児が経験し身に付けていく内容の関連性や小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2)保育内容の指導方法と保育の構想：幼児の発達や学びの過程を理解し、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。</p> <p>①幼児の認識・思考、動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。</p> <p>②各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用方法を理解し、保育の構想に活用することができる。</p> <p>③指導案の構成を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。</p> <p>④模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。</p> <p>⑤各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p> <p>2-保育内容の理解と方法</p> <p>(1)子どもの心身の発達や子どもを取り巻く環境等と保育所保育指針に示される保育の内容を理解した上で、子どもの生活と遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。</p> <p>(2)保育における教材等の活用及び作成と、保育の環境の構成及び具体的展開のための技術を実践的に習得する。</p>			
テキスト	<p><和田>「第2版 アクティブラーニングを取り入れた子どもの発達と音楽表現」櫻井琴音・上谷裕子 編（学文社）</p> <p>その他、適宜資料を配布する。</p> <p><石田>「幼児造形の基礎～乳幼児の造形表現と造形教材～」樋口一成著（明文書林）</p>			
参考書・参考資料等	<p>「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 原本」（株式会社チャイルド本社）</p> <p><和田>「平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領<原本>」（チャイルド本社） 「表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く」上野奈初美 編（明文書林） 「幼児の音楽教育法 美しい歌声をめざして」吉富功修・三村真弓 編（ふくろう出版） 「創造性を育む 乳幼児からの音楽表現」佐野仁美・岡林典子 編（ミネルヴァ書房）</p>			
成績評価の方法	<p><和田> 提出課題(指導案含む)…50%、模擬指導…20%、平常点(受講意欲・態度など) …30%</p> <p><石田> 関心・意欲・態度…授業準備状況、作品等の提出状況（20%）、知識理解…レポートや配布プリントの記述（50%）、造形的な技能…提出物等の密度や完成度、丁寧な取り組み（30%）</p>			
授業外（事前・事後）学習の方法、オフィスアワー等	<p><和田> 事前学習については授業で指示する。事後学習についてはコメント提出を指示する。</p> <p>オフィスアワー：火曜日14:30～15:00、水曜日14:00～14:30、金曜日16:30～17:00。質問は授業時間の前後でも受け付ける。</p> <p><石田>事前学習:授業に関連する資料や新聞の記事などを集めさせ、スクラップさせる。 事後学習:製作完了後に鑑賞会を実施し、相互批評を行う。</p> <p>オフィスアワー:水曜日 昼休みと授業終了後～16:00（図工研究室）</p>			
授業計画	授業の内容		到達目標番号	
第1回	・動く活動 子どもの発達と動く活動、動く活動の意義とねらい、リトミック、動く活動の実践（担当：和田）		1-1(1)-②,1-1(1)-④,1-2(1)-①,1-2(1)-⑤,2-1(1),2-3(1),2-4(1)	
第2回	・奏でる活動／指導案の作成 子どもの発達と奏でる活動、奏でる活動の意義とねらい、各楽器の特徴と奏法、音楽表現活動の部分設定保育指導案作成（担当：和田）		1-1(1)-①,1-1(1)-②,1-1(1)-③,1-1(1)-⑥,1-2(1)-①,1-2(1)-③,1-2(1)-⑤,2-1(1),2-2(1),2-3(1),2-4(1)	
第3回	・つくる活動 子どもの発達とつくる活動、つくる活動の意義とねらい、音づくり、絵本と音楽表現（担当：和田）		1-1(1)-②,1-1(1)-④,1-2(1)-①,1-2(1)-⑤,2-1(1),2-3(1),2-4(1)	
第4回	・情報機器および教材の音楽表現活動への活用／奏でる活動 表現活動におけるICTとは、情報機器の活用例、ICTを活用した保育の検討、器楽合奏（担当：和田）		1-1(1)-②,1-1(1)-④,1-2(1)-①,2-1(1),2-2(1),2-3(1),2-4(1)	
第5回	・つくる活動 子どもの歌を基にした物語を演じる、音楽劇を作る(企画・準備)（担当：和田）		1-1(1)-②,1-1(1)-④,1-2(1)-①,1-2(1)-②,1-2(1)-⑤,2-1(1),2-3(1),2-4(1)	
第6回	・つくる活動／保育現場における音楽表現活動の動向 音楽劇の創作(練習・上演)、音楽教育メソッド、国内外の音楽表現活動の動向（担当：和田）		1-1(1)-②,1-1(1)-④,1-2(1)-①,1-2(1)-⑤,2-1(1),2-3(1),2-4(1)	
第7回	・音楽表現活動による模擬指導 模擬指導の計画および準備（担当：和田）		1-1(1)-①,1-1(1)-②,1-1(1)-③,1-1(1)-⑥,1-2(1)-①,1-2(1)-②,1-2(1)-③,1-2(1)-④,2-1(1),2-2(1),2-3(1),2-4(1)	
第8回	・音楽表現活動による模擬指導 模擬指導の実施および振り返り（担当：和田）		1-1(1)-①,1-1(1)-②,1-1(1)-③,1-1(1)-⑥,1-2(1)-②,1-2(1)-③,1-2(1)-④,2-1(1),2-2(1),2-3(1),2-4(1)	
第9回	いろいろな描画材料を用いた活動① パス類や水絵の具を使った子どもの表現活動について理解し実践する。（担当：石田）		(1)-②,(1)-③,(1)-④,(2)-①	
第10回	いろいろな描画材料を用いた活動② 水性ペン、油性ペン、竹ペン等を使った子どもの表現活動について理解し実践する。（担当：石田）		(1)-②,(1)-③,(1)-④,(2)-①	
第11回	いろいろな紙を用いた活動 折り紙や色画用紙、新聞紙などを使った子どもの表現活動について理解し実践する。（担当：石田）		(1)-②,(1)-③,(1)-④,(2)-①	
第12回	いろいろな粘土を用いた活動 紙粘土や油粘土、様々な加工粘土などを使った子どもの表現活動について理解し実践する。（担当：石田）		(1)-②,(1)-③,(1)-④,(2)-①	
第13回	保育指導案の作成① 造形表現の様々な分野の指導案事例を参考に現場で役立つ指導案を作成する。（担当：石田）		(2)-①,(2)-②,(2)-③	

授業計画	授業の内容	到達目標番号
第14回	保育指導案の作成② 保育指導案の作成に際してOHCや書画カメラなどの情報機器の活用場面も設定する。又、必ず試作品も自作して指導案作成に役立てる。(担当：石田)	(2)-①,(2)-②,(2)-③
第15回	模擬保育の実践 作成した指導案や試作品を基に模擬保育を実践する。(担当：石田)	(1)-①,(2)-①,(2)-②,(2)-③,(2)-④,(2)-⑤
第16回	振り返りとレポート作成 授業内容を振り返り、保育内容「表現」のねらいや意義と指導法について自分の意見、考え方をまとめる。(担当：石田)	